備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成25年度事業）

事業の概要

事業開始年度			平成１７年度～	根拠法令・例規等	
総合計画	大項目	基本目標	04 土台となる政策「安全・安心」	問合先 担当課（室）	まち整備課
	中項目	基本施策	05 安全に暮らせるまち	職・氏名	管理係長　瀬尾茂樹
	小項目	施策	17 河川改修・砂防施設整備	電話	0869-64-1833
事務事業名			01 県河川維持管理事業	このシート作成に要した時間	2.5 時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	県管理河川地域住民
目的（何のために）	県管理の樋門等の管理を委託し住民の安全を図る
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	災害時等の被害を最小限にしたい

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業	細事業名	事業の説明	優先度
	樋門等管理委託事業	県施設の樋門の管理	◎
	吉井川下流改修促進協力会負担金	河川管理協市町村負担金	△
	ダム市町村全国協議会負担金	ダム管理市町村負担金	△
	河川維持管理要望事務	河川管理の要望	○

決算額	事業費等		単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
	事業費	直接事業費	千円	468	414	412
		必要人員 人件費	千円	0.10人 932	0.04人 371	0.01人 79
		事業費計	千円	1,400	785	491
	財源	国県支出金	千円			
		受益者負担金	千円			
		繰入金	千円			
		市債	千円			
		その他（　　）	千円			
		一般財源	千円	1,400	785	491
	受益者負担比率		%	―	―	―

結果指標	結果指標名	単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
	樋門等設置箇所	説明			
	結果指標量	箇所	18	17	17
	対前年比	%	―	94.4%	100.0%
	活動コスト	円	1,400,000	785,000	491,000
	単位当たりコスト	円	77,778	46,176	28,882

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度目標値
苦情処理件数	目標値（A）	1	0	0	0
	実績値（B）	1	0	0	到達目標値
	達成率（B/A）	100.00%	#DIV/0!	#DIV/0!	0

成果指標設定の考え方・式や説明：苦情連絡件数（B）/苦情連絡対応処理件数（A）

Check

事務事業の評価

該当する項目を☐から■へ　＜　■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価

市の関与の妥当性必要性 ／ 市民ニーズ

- ☐ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ☐ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ☐ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- ■ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：C

効率性の評価

コスト手段

- ☐ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ☐ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ☐ 受益者負担率は適正である
- ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
- ■ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：C

有効性の評価

目的達成度 市民参画度

- ☐ 成果指標の設定は適切である
- ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ☐ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ☐ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：C

成果指標に留意しながら有効性を評価

進行年度（H26年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

説明：樋門の一部において老朽化が激しい。操作性及び機能維持のため補修を県に要望する。

総合評価

地域住民が安心して生活するために樋門の管理は必要であり、今後も引き続き管理していかなければならない。

総合評価（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）：C

Action

平成27年度の方向性 ・ 取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
		○					

取組目標：次年度以降も引き続き要望していく。